



病診連携通信

第 28 号

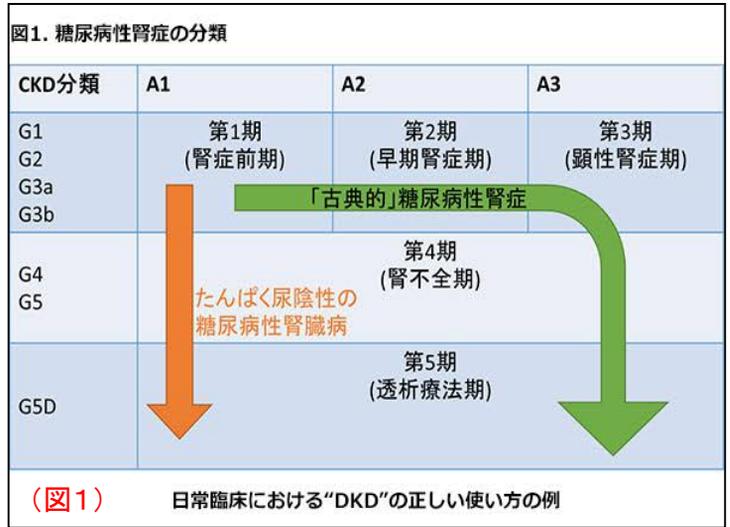
公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
平成31年2月

新しい疾患概念『糖尿病性腎臓病』について

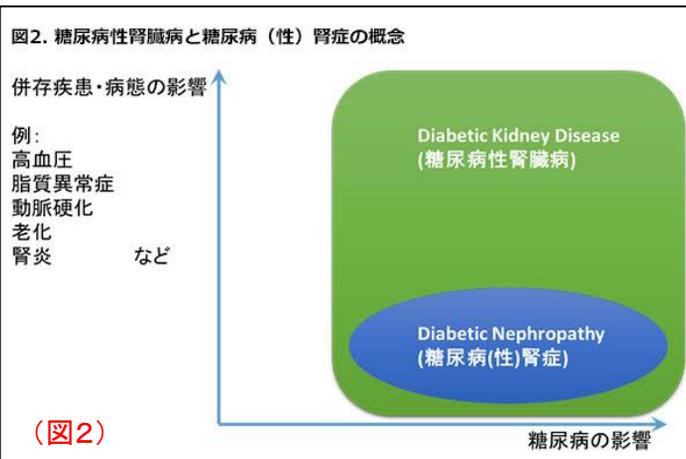
慢性腎臓病(CKD)や糖尿病性腎症は聞いたことあると思いますが、最近、新しい概念として、糖尿病による腎障害を全て「糖尿病性腎臓病(DKD)」と言うようになってきています。

従来の「糖尿病性腎症」は、早期に糸球体濾過が過剰となり、アルブミン尿を呈した後、顕性蛋白尿となり、ネフローゼ症候群から腎機能低下を来し、最終的に末期腎不全に至る疾患概念でした。

しかし、近年はこのような典型的経過をたどらない、糖尿病に起因する腎障害が増加しています。すなわち、蛋白尿や糸球体過剰濾過を呈さず、腎機能障害が進行する場合があります(図1)、これらの背景には、糖尿病のみならず、高血圧、動脈硬化、脂質異常など様々な病態が混在することも多く、



糖尿病性腎症を含んだ腎障害の病態を、包括的に「DKD」と定義するようになりました(図2)。用語が変わっても、DKDに対する治療戦略は変わりません。血圧や血糖の管理、禁煙を指導し、糖尿病以外の加療可能な腎疾患の検索を試みることになります。実際、蛋白尿は軽度でも、腎障害の進行が早いDKDをしばしば経験することがあり、「蛋白尿が少ないので大丈夫」ではなく、「尿蛋白が少なくとも、腎機能低下が少なくとも、腎機能低下が早いDKDもある」ことを念頭に、定期的に尿蛋白量や腎機能を評価し、かかりつけ医と腎臓専門医が連携していくことが重要になります。



「蛋白尿が少ないので大丈夫」ではなく、「尿蛋白が少なくとも、腎機能低下が少なくとも、腎機能低下が早いDKDもある」ことを念頭に、定期的に尿蛋白量や腎機能を評価し、かかりつけ医と腎臓専門医が連携していくことが重要になります。

DKDの患者さんがおられましたら、ぜひ当科へご相談ください。(腎臓内科:佐々木信博)

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または

☎024-932-6363 (代表) にお問い合わせ致します。